

東日本大震災のあの被害はどう解決されたのか

－液状化・高層ビル・天井落下・帰宅困難者－

東日本大震災から3年半が経過した。M9という非常に大きな規模の地震は、首都圏にも大きな被害を発生させた。東京湾岸部では液状化被害が発生し、ライフライン・住宅に大きな被害を発生させた。高層ビルの上層部では大きな揺れにより、家具の転倒等の様々な問題が発生した。さらに天井落下による人命が失われるという被害も発生している。また、地震が発生したのは都心で多くの人が活動している時間であり、公共交通機関の停止により多くの人が自宅に帰られなくなった。首都圏では首都直下地震の発生が懸念されているが、南海トラフの巨大地震でも首都圏では東日本大震災と同じような影響をもたらすことが予想される。このシンポジウムでは、この3年半で、東日本大震災時に首都圏で発生した被害の原因はどのように解明され、さらにどういった対策が講じられてきたのか、について報告し、今後の首都圏における防災対策のあり方について議論する。

主催 一般社団法人日本建築学会 災害委員会

日時 2015年2月5日（木）13:00～16:30

会場 震災対策技術展・パシフィコ横浜・アネックスホール（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

http://www.exhibitiontech.com/etec/access_yokohama.html

プログラム（敬称略）

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| (1) 主旨説明（10） | 齊藤 大樹（豊橋技術科学大学） |
| (2) 基調講演（60） | |
| 過去の大震災を踏まえ首都直下地震・南海トラフ地震にどう備えるか | 神田 順（日本大学） |
| (3) 話題提供（各20、テーマは仮） | |
| ①液状化被害とその対策 | 若松加寿江（関東学院大学） |
| ②超高層建築物の揺れとその対策 | 永野 正行（東京理科大学） |
| ③天井落下の発生メカニズムと対策 | 元結正次郎（東京工業大学） |
| ④帰宅困難者とは何か | 関本 義秀（東京大学空間情報科学研究センター） |
| －休憩10分－ | |
| (4) 全体ディスカッション（40） | |
| コーディネーター： | 牧 紀男（京都大学防災研究所） |
| (5) まとめ（10） | 齊藤 大樹（前掲） |

司会：牧 紀男（前掲）

記録：岩見 達也（建築研究所）

参加費 無料（資料代1,000円）

定員 180名（申込み先着順）

申込先（Web申込み） <http://www.exhibitiontech.com/etec/seminar.html> より

震災対策技術展 HP <http://www.exhibitiontech.com/etec/>

問合せ 日本建築学会事務局 小野寺篤 onodera@aij.or.jp TEL03-3456-2051